

「学ぶ意欲を活かし、実践的コミュニケーション能力を育成する
英会話・英語科の学習指導」
～ 人・社会・世界とのつながりを追求して ～

1 小学校のこれまでの取り組み

附属小学校では、韓国の姉妹校春川教育大学附設初等学校との交流を続けており、今年で10回目を迎えた。今年度は訪韓の年にあたり、5、6年生44名が親善大使として春川小の児童と交流を行った。韓国の文化を肌で感じるができるよい経験となった。ホームステイ先では、共通のコミュニケーション手段の1つとして英語を活用する場面も多く見られた。

小学校の英会話については、平成11(1999)年度に文科省指定研究校として「英会話」を新設し、以後コミュニケーション能力を高めることをねらいとして学習を続けてきている。当初は、5、6年生のみであったが、平成12(2000)年度からは3年生以上で年間20時間の学習を設定。その後、5、6年生については平成15(2003)年度から毎週1時間へと学習時間を拡大した。また、平成16(2004)年度には、絵本を題材に1、2年生への英語活動も試行的に行い、よりよいコミュニケーション能力育成をめざそうと模索している。



2 平成18年度の取り組み

●英会話

3年生～6年生については総合的な学習の時間を活用して英会話を行っている。いずれの時間もALT、JTEとHRTのチームティーチングで行っている。当日の活動内容については、事前にALT、JTEからの連絡(FaxやE-Mail)があり、HRTの役割などを確認している。各学年の配当時間と形態は以下の通り。

学 年	配当時間	主な学習の形態(TT)
3, 4年生	隔週1時間/年間20時間	ALT(デビー先生)とHRT
5, 6年生	毎週1時間/年間40時間	(A週) ALT(デビー先生)とHRT (B週) JTE(河口先生)とHRT

●朝自習の時間 E T（毎週水曜日 15 分間）

平成 16 (2004) 年度から全校での英語活動の取り組みとしてワールドタイムで E T (English Time)を行っている。ワールド委員会（4 年生以上 24 名で構成）が 2 人 1 組でクラスをリードし、英語を中心とした（韓国との交流の時期には、ハングルも扱う）活動を行っている。歌、あいさつ、事物の名前などを取り入れ、ゲームを通して英語に親しめるようにしている。

ワールド委員会の児童は、まだ十分に英語を使えているわけではないが、英会話の学習で学んだことを生かして、ゲームを考えたり、英語で言えることを増やそうとしたりしている。毎回の活動の内容については子どもたちが主体となって考えている。学級の実態に応じて担任の先生のアドバイスをもらい、よりよい活動になるようにしている。今後は、学年の系統性や全校一斉での活動などを考えていく予定である。



ラインゲーム



カルタゲーム



What's this ?

3 かかわり合う力、適切に判断する力、自分を生かす力の育成をめざして

●学ぶ意欲との関わり

小学校での英会話は、児童が英語に慣れ親しみ、コミュニケーションの道具として活用しようとする態度を身につけることをねらいとしている。子どもたちが最も生き生きとした表情を見せるのは、英語で自分自身や身の回りのことを他者にうまく伝えることができた時である。英語でコミュニケーションがとれるようになることそのものが、子どもたちの英語に対する興味・関心を高め、新しい表現を覚えるきっかけとなると考える。

そこで、小学校段階では、音声中心に「聞く」

「話す」活動に焦点を当てて学習を構成している。児童に身近な内容や場面を中心に単元作りを行っている。どの単元も「活動」からのアプローチによる授業構成を考え、活動による意欲の連続性を毎時間の学習には、前回までに学んだ活動を組み込んでいく。

実際の学習では、ゲーム・歌・チャンツ・フォニックスなどを取り入れ、「無理なく・楽しく・繰り返し」となるように心がけている。3，4 年生と 5，6 年生でそれぞれ学習



Who am I ? Hint ,please!

内容に関連を持たせ、これまでの学びを生かしながら少しずつレベルアップして、新しい表現も学べるようにしている。子どもたちが、楽しく学ぶ中にも、学びの質が高まるのではないかと考えている。子どもが言えたことをしっかりとほめたりして、くり返すことへの動機づけを行い、自信を持って声が出せるように導いている。

中学校との連携の視点としては、小学校で題材としたものを語彙的に広げたり、文法的にとらえたりする、スピーチなどを組み込むなどが挙げられる。

●実践的コミュニケーション能力の育成との関わり

英語を手がかりとして、人・社会とつながり、世界とのつながりを追求しようとする子どもたちを育成するためにも、小学校英会話では、普段の学習においても話者を意識した態度がとれるようにしている。また、デビー先生の発音を耳だけでなく、身振り手振り、表情など非言語的な部分も大切にしてお伝えられるようにしている。

デビー先生とのやりとりは、基本的に英語のみで行い、それ自体をコミュニケーション活動の一つとして大切にしている。3年生で初めて学ぶ児童もデビー先生の説明を聞いて何を伝えようとしているのかを推測し、次の活動をつかんでいけるようになっている。デビー先生の会話の中から分かる単語を聞き取り、活動と結びつけて口々に「～をするんだあ。」など推測するのも一つの楽しみとしている。新しい内容が入る時にはHRTが日本語で補足し、安心感も持たせている。また、英会話の時間は、子どもたちの意欲が継続するように、子どもたちを受け入れ、ほめることを大切にしている。そのため、間違いを気にせず自分の知っている単語や身振り、表情などでコミュニケーションをとろうとする様子も多くみられるようになっている。



How tall are you ?

I don't know. Let's see.

コミュニケーションは、自分の持っている力がかかわりを持とうとすることからはじまるので、学んだ表現を使う場面を多くし、変化のある繰り返しが1時間の学習の中に展開できるようにしている。また、自由に発言し、関わろうとする姿を期待したい。どの活動でも、自分と聞き手（ペア・グループ・チームで）を意識できるように活動を構成しているので、デビー先生や友達の話をよく聞き、自分の思いを伝えられるように支援するようにしている。このように、英会話では、英語という言語を介して人とのかかわりを大切にし、自分の思いを表現できるように学びを積み上げていっている。

4 成果と課題

- ・どの活動にも意欲的に取り組み、友達とのかかわりも広げることができている。
- ・委員会の児童については、英会話の学習を生かして他の学年とかかわることで、自分の力でリードしようとする姿が見られるようになった。同学年の友達にもそれがよい刺激となっている。
- ・年間計画は毎年見直しをしているが、高学年での取り組みや、小、中9年間を見通したカリキュラムの検討を行う必要がある。ETの学年間のつながりも考えたい。